

インテレクチャル・カフェ広島(広島大学)を開催しました(H22.8/2)



インテレクチャル・カフェ広島は、広島地域における大学の若手研究者が、産業界・金融機関・行政関係者等と気軽に交流することで、次世代の地域イノベーション創出のネットワーク形成を図ることを目的とした交流会です。

広島県内の5大学(広島大学, 広島市立大学, 広島工業大学, 県立広島大学, 近畿大学工学部)の持ち回りで、平成20年から継続的に開催しており、今年度は前回の広島市立大学(H22.7/1開催)に続く第2回目の開催です。

当日は、広島大学理事・副学長 岡本哲治氏の開催挨拶に続いて、2名の先生方から話題提供を頂きました。

話題提供1

演題:「豚精子の凍結保存と人工授精法が我が国の養豚業を大転換させる」

講演者: 広島大学大学院生物圏科学研究科陸域動物科学専攻 島田 昌之 准教授

<概要>

養豚業において、コスト削減と計画的生産の観点から強く望まれながらも技術的な難しさから実用化に至っていなかった凍結精液による人工授精について、凍結・融解・受精条件を最適化することで、自然交配を超える繁殖成績を得ることに成功した。これにより、良質な豚の計画的生産体制の構築や、口蹄疫等の疫病蔓延時における貴重な純系種や銘柄種の保存が可能となる。

講演資料①

話題提供2

演題:「低炭素社会形成にも有効な巨大な増強効果を持つナノ粒子」

講演者: 広島大学自然科学研究支援センター 低温・機器分析部門 齋藤 健一 准教授

<概要>

ある特定のナノ構造体を持つ金属の表面に、特定の波長の光を当てると、金属がその光と共鳴し「プラズモン」が生成する。この現象を利用し、巨大な電場増強効果をもたらす「金ナノ粒子」の生成に成功した。この技術を用いると、手のひらサイズの分子解析装置、極希薄溶液・医薬品の高速分析、バイオチップへの応用が期待される。

その他、フルカラーならびに紫外線で発光するシリコンナノ結晶の生成にも成功した。シリコンは原料が無尽蔵で、環境にも優しい物質である。今後、サステイナブルな照明、ディスプレイ、光電子デバイスへの応用が期待できる。

話題提供の後、中国経済連合会の福田会長による乾杯挨拶により、軽食と飲み物による立食形式の交流会を開催し、会場内の至るところで大学研究者やコーディネータの方々と各界関係者との活発な意見交換が行われました。

今後も学術分野等を限定せず、各大学による定期的な開催を予定しています。ご興味のある方は、ぜひご参加下さい！

インテレクチャル・カフェ広島の様子



開会挨拶の後、主催大学の若手の先生方から、最新の技術シーズや研究の状況等の話題提供を頂きました。

会場内の至るところで、広島大学さんのイチオシ技術シーズのパネル展示が行われています。



話題提供後の交流会では、会場のいろんなところで、大学の先生方と各界の方々が、活発に意見交換されていました。